

# 「金沢大学資料館紀要」の創刊にあたって

金沢大学資料館長  
宮 下 孝 晴

金沢大学資料館は、平成元年に金沢大学総合移転を契機として、角間キャンパスに学内共同利用施設として設置されました。金沢城址内の旧キャンパスにあって、石川門・三十間長屋・鶴の丸倉庫で保管されていた諸資料を収蔵管理する目的で設立されたわけですが、以後も学内の学術研究資料を系統的に収集、整理及び保存し、広く教育研究に貢献すべく努めています。

本紀要は「金沢大学資料館の収蔵品及び本学に関する歴史的資料、もしくは文化的・学術的価値を有する物品に関する論考・調査報告」を発表する場として隔年刊行されることが平成9年度第4回資料館運営委員会で決定され、多くの方のご協力のもとに創刊の運びとなったものです。

これまでも年2回「資料館だより」を発行し、当館が所蔵する各種資料の調査や研究について、できるかぎり発表してきましたが、限定された紙面では学術的な研究内容を十分に盛り込むことが難しく、かねてから紀要の発行が望まれていました。予算的な問題もあって当面は隔年発行ですが、幅広いジャンルの学術研究論文を掲載し、金沢大学附属の研究施設としての活動に力を入れていきたいと思っています。そして、近い将来には本学所蔵の貴重な資料をいっそう有意義に生かすべく、資料館が「金沢大学総合博物館」として生まれ変わることを願ってやみません。

なお、この「金沢大学資料館紀要」創刊号は、文部省学術情報センター及び本学附属図書館等の共同事業として、その推進が試みられている「研究成果の電子化」プロジェクトに協力することとなり、執筆者各位の快諾を得たことを付記しておきます。

